

42 フランスの美術館に対する日本企業のメセナ活動（2021年3月23日）

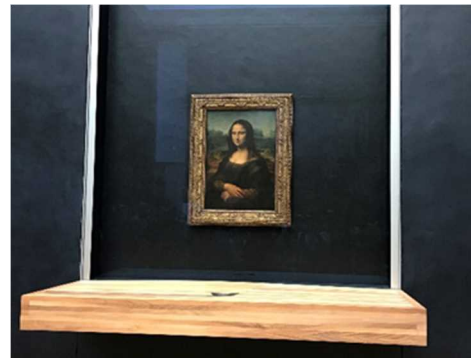
パリにある美術館を見学していた際に、企業や財団のメセナ活動に対する謝意を表明するプレートを見かけました。日本企業によるメセナ活動も行われていますので、いくつか例をご紹介します。

まずは、ルーブル美術館です。1980年代にミッテラン大統領によって推し進められたパリ大改造計画（グラン・プロジェクト）の一環として、「大ルーブル計画」によってルーブル美術館が改修されました。1989年にあの有名なガラスのピラミッドが完成しました。ピラミッドの下（地下1階）にあるナポレオンホールから少し奥に入った壁には、改修に協力した朝日新聞、出光、第一生命保険、JTB、野村、セゾングループ、ソニー、高島屋、朝日カルチャーセンターの名前が刻まれています。



近くには、ナポレオンホールにある受付の改修に協力した木下グループに対する謝意が刻まれた壁もあります。

日本テレビが、「モナリザ」の展示室の改修（2005年完成）、「ミロのヴィーナス・ギャラリー」の改修（2010年完成）、「サモトラケのニケ」の修復（2014年完成）に協力しました。館内には、東芝のLED照明が設置されました。日本テレビと東芝は、フランス文化省から、グラン・メセナ文化勲章を叙勲されました。TOTOのメセナに対する謝意が示されたお手洗いもあります。2012年に落成したイスラム部門の展示室に設置されているプレートには、メセナを行った企業として大日本印刷の名前もあります。



パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

ドラクロワが暮らしたアパートを活用した国立のドラクロワ美術館の中庭は、木下グループのメセナによって改修されました。



一日も早く美術館が再開し、貴重な文化財保護のためにも、社会が新型コロナ危機から一日も早く脱出して、再び活発なメセナ活動が行われることを願わずにはられません。